

多喜二追悼ウオーク（続）

[治安維持法同盟神奈川県本部湘北支部『不屈 湘北版』 投稿原稿]

下山房雄

多喜二の杉並・中野を歩く

1933年2月22日—多喜二虐殺の日の80年後の同じ日に私が参加した多喜二追悼ウオークのことは本紙今年3月の16号に報告した。そのウオークのガイド役をなされた藤田廣登さんから案内を頂いて、12月1日に追悼ウオーク続編である標記の「歩く」に参加した。

まず阿佐ヶ谷駅に集合。近くの、多喜二が母セキ・弟三吾と30年7月～32年4月の間住み、33年2月21日虐殺遺体が引き取られた馬橋の家跡を訪ねる。次に高円寺駅に移動して、映画「母べー」主人公モデルの新島繁が開き多喜二が「インター」「産業労働時報」購入で毎月通った古書店大衆書房跡を訪ねる。多喜二が高円寺駅に良く下車していたことは分かっていたのだが、それが何のためかは映画「母べー」制作過程での史跡確認でわかったのだそうである。

阿佐ヶ谷、高円寺いずれの史跡も、案内のパネルや道標は無い。住民や自治体の協力が得られず困難なのだそう。戦後民主主義の至らない状況の一つの現れで残念に思った。その点、多喜二が小説「オルグ」を執筆のため1931年3-4月に滞在した七沢・福元館離れの存在を案内する国賠同盟のガイドのパネルの標示は貴重だと改めて思った。



高円寺の次は中野駅。多喜二が30年8月～31年1月の間、収監された豊多摩刑務所跡を訪ねる。大杉栄、河上肇、戸田城聖など多くの人々が国家に背く「罪人」として拘置され、三木清が1945年9月26日（敗戦の一ヵ月半の後!!!）に獄死した所だ。

1983年に刑務所は閉鎖され、現在は「平和の森公園」などになっているが、入口の門（獄門とはこのことか……）は不十分な状態で（左掲写真正面の入口上にある菱形の刑務所マーク(?)はもう剥落して無かった)保存されていて見学はできる。

下山房雄（2013年12月21日）